

製品名: Tie-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18923**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	130kDa

抗原情報

遺伝子名	TIE1
別名	TIE1; TIE; Tyrosine-protein kinase receptor Tie-1
遺伝子 ID	7075.0
SwissProt ID	P35590
免疫原	抗血清はヒト TIE1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 851-900

背景

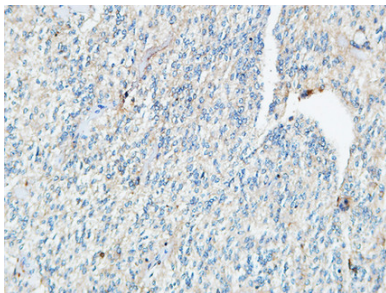
この遺伝子はチロシンタンパク質キナーゼファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、内皮受容体チロシンキナーゼ Tie2 を介したアンジオポエチン 1 シグナル伝達を阻害することで、血管新生と血管の安定性に重要な役割を果たし

ます。コードされているタンパク質のエクトドメイン切断は Tie2 の障害を解除し、血管内皮増殖因子を含む複数の因子によって媒介されます。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2011年11月],触媒活性: ATP + a [protein]-L-チロシン = ADP + a [protein]-L-チロシンリン酸。機能: おそらくタンパク質チロシンキナーゼ膜貫通受容体。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。Tie サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 2つの Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを含む。類似性: 3つの EGF 様ドメインを含む。類似性: 3つのフィブロネクチン III 型ドメインを含む。組織特異性: 発達中の血管内皮細胞に特異的に発現する。、

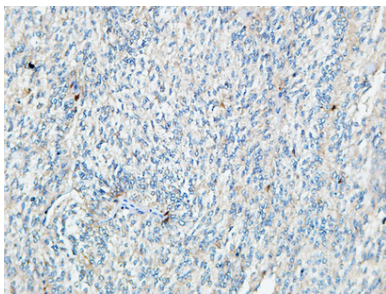
研究分野

シグナル伝達; タンパク質リン酸化; チロシンキナーゼ; 受容体チロシンキナーゼ; 幹細胞; 系統マーカー; 中胚葉; 癌; 腫瘍タンパク質/抑制因子; 腫瘍タンパク質; 成長因子受容体; 心血管; 血管系; 内皮; 内皮前駆細胞; 内皮マーカー; 発生生物学; 系統の特定

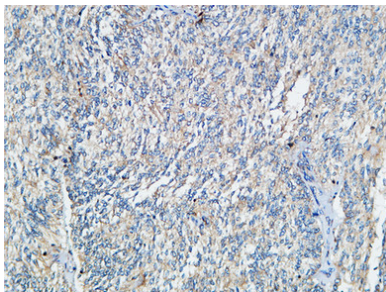
画像データ



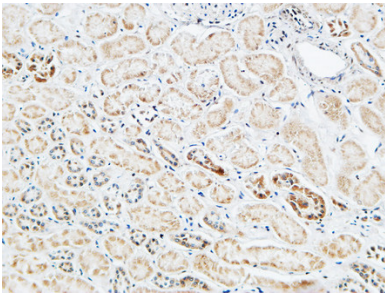
パラフィン包埋ヒト卵巣腫の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



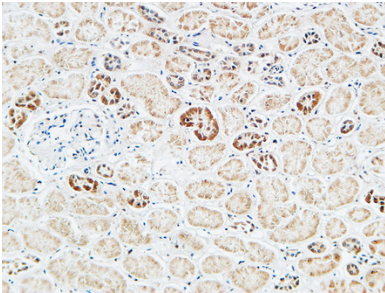
パラフィン包埋ヒト卵巣腫の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



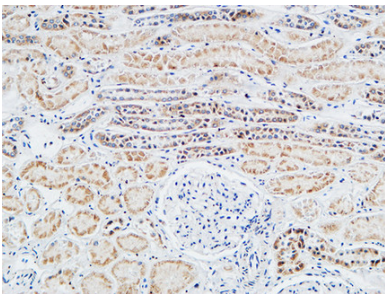
パラフィン包埋ヒト卵巣腫の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。